



▲シュノーケリング体験。

1 シマの夏は最高どー！！ 恒例のシマっ子体験学習

毎年恒例となっているシマっ子体験学習を8月10日、11日の2日間開催しました。小学4年生から中学2年生までの43名が参加。1日目はタエン浜でバナナボートやシュノーケリングなどのマリンスポーツを楽しみました。2日目は牛のエサやり体験や河内川でのタンガ取り、スイカ割りなどを行い、2日間に渡りシマの夏を思いっきり満喫。参加した子ども達は終始笑顔で、思い思いに楽しんでいました。



▲やっぱりバナナボートが一番人気！！



▲ハーブ入り石鹸やタンガ取り用の網を作りました。



▲参加者全員での記念撮影。



▲タンガ取りやスイカ割り、牛のエサやりも体験。





▲大島紬村で大島紬の作り方を学びました。



▲マングローブパークでのカヌー体験。

2 宮城県七ヶ宿町の小学生5名 シマを満喫！ 様々な体験！！

平成25年度から交流が続いている宮城県七ヶ宿町。3回目となる今年も七ヶ宿小学校の6年生5名が、8月9日～12日まで3泊4日の日程で宇検村を訪れました。10日はシマっ子体験に参加。マリンスポーツなどを通し、村内の児童生徒と交流を深めました。また、11日はマングローブパークでカヌー体験や海洋展示館、野生生物保護センターを訪問。奄美でしかできない様々なことを体験しました。



▲海洋展示館と奄美野生生物保護センターを訪問。



▲住民代表らと語り合う三反園知事。

3 三反園知事と意見交換 「知事と語ろう車座対話」

今年7月の県知事選挙で初当選した三反園訓知事が9月12日（月）、湯湾会館で住民と直接意見交換を行うため「車座対話」を開きました。様々な方面で活躍する宇検村と瀬戸内町、大和村の住民代表24人が参加し、教育や子育て支援、観光の振興や雇用の創出などの意見や要望などを知事に伝えました。三反園知事は「直接その地へ出向かないと地域で起きていることはわからない。今日聞いたことを今後の県政に生かしたい」と語りました。



▲挨拶をする眞鍋政義前監督。

4 全日本女子バレーボール前監督 眞鍋政義さんの慰労会を開催

全日本女子バレーボールチームの前監督で、日本の女子バレー界に28年ぶりにメダルをもたらした、2009年から約8年間チームを率いた眞鍋政義さんを招き、リオ五輪の慰労会が9月23日（金）、宇検村バレーボール協会の主催により、やけうちの里で開催されました。村関係者やバレーボール部の田検中の生徒など約60名が参加。リオ五輪での活躍やこれまでの労を出席者全員でねぎらいました。



▲委嘱状を手にする丸山耕市さん（右）。

5 地域おこし協力隊第2号 丸山耕市さん

宇検村地域おこし協力隊第2号として丸山耕市さん（56）に10月3日（月）委嘱状を交付しました。丸山さんは香川県小豆島出身。九州産業大学美術部デザイン課を卒業後、企画室TEPPENを設立。これまでに本村の長期振興計画やケンムン公園の銅像をデザインするなどの繋がりががあります。任期期間中は結の館を拠点として、宇検村観光協会での観光業務支援やWeb媒体などを使い、宇検村の魅力発信やPR業務などを担当します。



▲山畑先生と阿室小中学校の児童・生徒たち。

6 山畑 馨先生 阿室小中学校の児童生徒と交流

宇検村の村民歌や交響譚詩『ベルスーズ奄美』、そして阿室小中学校の校歌を作曲された山畑馨先生が10月14日（金）、同校を訪れ児童生徒と交流を深めました。山畑先生は現在95歳。日本ファゴット協会名誉会長・沖縄県立芸術大学名誉教授をされています。山畑先生は子どもたちに向け、しっかりとした口調で「みんな一人一人特性がある。個性を大事にしてほしい」などとメッセージを送っていました。



▲完成した平田集落共同納骨堂の落成式。

7 平田集落共同納骨堂が完成 落成式、祝賀会を開催

宇検村では9番目の建立となった平田集落の共同納骨堂がこのほど完成し、10月23日(日)に集落住民や郷友会会員ら約70名が出席して落成式及び祝賀会が行われました。集落住民や出身者から寄付を募り、総事業費2,527万円をかけて集落墓地の隣に建設。納骨壇は76基で、すべて完売。平田集落区長の盛宮信治さんは「皆さんのおかげで立派なものできました。」と話しました。



「阿室海景Ⅲ」

F15 水彩・グワッシュ

審査員からは「水、風、流れなどを俯瞰して海の流動的は良いフォルムを生み出している。透明感やひらめきを感じさせる色調で、臨場感のある作品である」と評価されました。

8 見事大賞に輝く！！ 阿室在住の山口明日香さん

第15回記念奄美を描く美術展で宇検村阿室在住の山口明日香さんが描いた水彩画「阿室海景Ⅲ」が見事大賞に輝き、田中一村記念美術館で10月30日授賞式が開かれました。山口さんは東京都出身。自然の中で生活したいと2016年3月から阿室集落にIターン。描いたのは、阿室の海岸。あまりにも美しく、これを絵にしたいと筆をとったとのこと。山口さんは「阿室集落の方々が優しく受け入れてくれたからこそ、この作品が描けた。周りのみんなに感謝したい」と受賞の喜びを語りました。



▲賞状を受け取る山口明日香さん。